

遠山文部科学大臣の欧州出張における
要人との会談結果について

平成 14 年 1 月 30 日
文 部 科 学 省

出張期間：平成 14 年 1 月 9 日（水）～ 16 日（水）

訪問国：ベルギー（EU：欧州連合）、ドイツ、チェコ
及びオーストリア

<u>訪問先</u> ：EU	ビュスカン 科学技術担当欧州委員 レディング 教育文化担当欧州委員
ドイツ	マックスプランク分子遺伝学研究所 イシンガー フンボルト大学副総長 ゲートゲンス ベルリン自由大学総長 ブルマン 連邦教育研究大臣
チェコ	ウイルヘルム カレル大学長 ゼマン 教育大臣
オーストリア	ヴィンクラー ウィーン大学長 ゲーラー 連邦教育・科学・文化大臣 モラク 芸術・メディア担当国務大臣

1．科学技術協力の推進

（１）EUとの科学技術協力に関する協定締結に向けた準備

ブラッセル（ベルギー）において、ビュスカン欧州委員（閣僚級）と会談し、我が国とEUとの科学技術協力に関する協定の締結に向けて準備を進めていくことで意見が一

致した。本協定が締結されれば、日本とＥＵの共同研究等について、ＥＵの研究開発支援計画である「第６次フレームワーク計画(2002-2006)」に基づく支援対象とすることが容易になる。同フレームワーク計画では、国際的な連携が重視されており、ポストゲノム、ナノテクノロジー、情報技術、気候変動、科学と社会等の７つの重点分野が設定されている。

(２) 重点分野等における協力の推進

我が国の重点４分野については、ＥＵ、独ともに高い優先度を置いており、研究協力を発展させることが重要である。また、ITERについては、欧州域内への誘致がＥＵ内で真剣に検討されており、また、ドイツにおいては、ＥＵと強い連携を持ちつつ、独自の核融合研究を推進するとの方針である。

2．大学改革の推進

ドイツ・チェコ・ＥＵなどの大臣等と大学改革について意見交換を行うとともに、フンボルト大学・ベルリン自由大学・ウィーン大学における改革への取組を直接見聞する機会を得た。

各国の大臣や各大学総長等との会談を通じて、高等教育のグローバル化が進む中で、各国とも積極的に大学改革に取り組んでいる実情が判明した。長い伝統と実績を持つ各大学が、現在、画期的な大学改革に取り組んでおり、その

方向性は、グローバル化への対応や組織運営のあり方など、我が国の改革とも共通する課題が多いものである。今後とも、情報交換を行う必要性について意見の一致を見た。

3 . 出張を通じた所感

E Uが欧州研究圏構想のほか、経済通貨統合の推進等によって様々な面で一体性を深め、協調して将来の発展に向けて前進し始めていることを感じた。また、いずれの国においても、国の将来が人材や科学技術にかかっているとの認識のもと、強い危機感を持って学力向上や大学改革等に取り組んでいることを身をもって実感し、我が国としても、教育の改革を推進しようという決意を新たにした。

さらに、今回の出張を通して、E U、独、チェコ及びオーストリアの各国とも、我が国との交流の促進に強い関心を持っているという印象を受けた。今後、文部科学省としては、研究者交流を推進しつつ、国際社会においてますます発言力を強めていくであろう欧州諸国と我が国との連携を深める中で、科学技術、教育、文化等の分野における適切な協力関係を強化していくことが有効と考えられる。